

「報徳」を通した人づくり

大日本報徳社の取り組みについて

令和8年1月24日
公益社団法人大日本報徳社
青木 克之

そもそも

「報徳」って？

江戸時代後期、小田原出身の農民、

二宮尊徳(1787-1856)が、

人口減少、経済疲弊、自然災害に

喘ぐ全国の農村の再建にあたり実践した、

二宮尊徳 = 二宮金次郎 です



14歳



56歳

関東地方を中心に、各地域の領主・農民に請われ、

地域村落の復興に励みました。

生涯を通じ、600村の再建に携わりました。

人が学び、支え合いながら社会を立て直すための知恵。

二宮尊徳の「報徳」の実践(仕法)の特色

- ①**道徳と経済の一致**（「経済無き道徳は寝言。道徳無き経済は犯罪。」）
- ②**荒地開墾** 地域(村)一体となった耕地(≒耕作放棄地) 開墾事業
- ③**「分度」経営** 己の収入に見合った適切な支出を。(≒儉約)
- ④**官民一体** 農民だけでなく、武士、藩。あらゆる主体が参画すること。
- ⑤**相互扶助と社会保障**
 - 相互扶助…信用金庫・協同組合の原型と言える相互扶助システム「五常講」
入百姓(移民)の受け入れ。
 - 社会保障…老人、婦人、被災世帯、病難者への扶助。新生児への小児養育料の支給。

「報徳」の知恵

至誠

他者や社会に対して誠実であること

勤労

自ら働き、価値の創出に努めること

分度

身の丈に合った適切な生活・経営

推譲

得た資源や余剰を自他の成長、次世代のために分かち合う

万象具徳

すべての人・ものに価値（徳）を見出す

以徳報徳

自分の徳を活かして人や社会に貢献する

心田開発

学びを通じた相互の成長を奨励（新田も、“心”の田も。）

一円融合

官民一体の協働。対立を超えた相互理解を尊重

「報徳」の普及を目的とした

(公社)大日本報徳社の取り組み

①常会の開催

1875年（明治8年）より、毎月1回、欠かさず「常会」を開催しています。報徳の普及や、様々な地域課題に取り組む方の講演、音楽や絵画等の文化芸術に触れる場などを提供し、

開かれた学びの場として、社会や地域に関わる様々な課題について考える場

の提供に努めています。

社会とのつながりの中で主体的に学び続ける場を整え、地域に根ざした人づくりを通じて次世代へと社会をつないでいく点において、持続可能な開発のための教育（ESD）の実践と捉えて取り組んでいます。



①常会の開催

令和7年度の常会テーマ

報徳/二宮尊徳 を学ぶ

農に触れ、自然に学ぶ子どもたちによる
「掛川やさいクラブ」の実践報告

高校生のチャレンジ！
地域文化を題材にした映画製作

市民で作る
地元劇団の活動報告

真夏の朝のジャズライブ

能登半島の復興に向けた
震災復興支援の活動報告

当事者主体の
視覚障害児教育

パラアート（障がい者アート）
に親しむ



②生活と文化の研究誌「報徳」の発行

月刊誌『報徳』を明治35年（1902年）の創刊以来、発行しています。

本誌は「報徳」を共通のテーマとしながら、社会、文化、経渉、地域づくりなど、生活に根ざした多様な課題を取り上げ、

異なる視点や経験に触れ、読者が自ら考え、学びを深めるための材料

を提供してきました。

また、全国各地の報徳運動の紹介や、時代の課題などを踏まえた特集を通じ、
地域と社会をつなぐ役割にも努めています。



②生活と文化の研究誌「報徳」の発行

主な特集記事（今回のテーマと関係ありそうなもの）



SDGsと報徳
共通点を視覚化へ

やさいクラブの活動は
現代の報徳仕法



協同組合と報徳
なぜ、報徳社が「国際協同組合年」
にフォーラムを開催するのか

「食」と「農」を考える

勸善と勧業

報徳と現代アート



③各種フォーラム・研修会の開催

「二宮翁夜話講座」を毎月1回開催しています。

本講座は、二宮尊徳が農村復興の仕法に携わる中で、子弟たちに夜な夜な語っていた談話を記録した『二宮翁夜話』を題材とし、地域社会、道徳と経済、豊かさや貧しさといった尊徳の残した様々な問いについて考える場です。

講義形式で知識を伝えるのではなく、参加者それぞれが夜話の言葉を手がかりに、自身の経験や考えを持ち寄り、語り合うことを大切にしています。

【いもこじ】

二宮尊徳はこのような場を「いもこじ」と呼びました。芋洗いの際、桶のなかでいも同士が擦れることで磨かれる様に例え、人も、交わり、意見を交わしあうことで成長するという意味が込められています。





国際協同組合年
協同組合はよりよい世界を築きます

③各種フォーラム・研修会の開催

昨年度、国連の定める「国際協同組合年」を記念し、

「国際協同組合年記念フォーラム 協同組合と二宮尊徳」

を開催しました。

持続可能な生産と消費、食料安全保障、気候変動対策、地域福祉や働きがいのある仕事の創出など、協同組合は持続可能な開発に向けた様々な役割に貢献しており、日本におけるその源流は、二宮尊徳の仕法にあると指摘されています。

協同組合連携機構、農協、生協、森林組合等の各機関、学術関係、地域で実践に取り組まれる様々な方々にご登壇いただき、多様な視点から協同組合を考える一日となりました。

③各種フォーラム・研修会の開催

「国際協同組合年記念フォーラム 協同組合とニ宮尊徳」

令和7年5月24日（土） 会場：大日本報徳社大講堂



国際協同組合年
協同組合はよりよい世界を築きます

- | | |
|--|------------------------------|
| <u>①「国際協同組合年における我が国の取組みと拓く地平」</u> | 比嘉 政浩 様(日本協同組合連携機構代表理事専務) |
| <u>②「生産消費者による都市と農村の融合」</u> | 薦谷 栄一 様(農的・社会デザイン研究所代表) |
| <u>③「岡田良一郎による地域社会形成と報徳社」</u> | 伊故海 貴則 様(北海学園大学法学部講師) |
| <u>④「生活協同組合ユーコープのめざす姿 えがおつながるユーコープ」</u> | 當具 伸一 様(生活協同組合ユーコープ理事長) |
| <u>⑤「森林組合系統の現状と課題について」</u> | 榛村 航一 様(掛川市森林組合代表理事組合長) |
| <u>⑥「水飲み百姓が今の水稻農業について思うこと！」</u> | 飯田 政明 様(農業生産法人佐束ファーム理事長) |
| <u>⑦「賀川豊彦の生活協同の思想と実践」</u> | 松野尾 裕 様(愛媛大学名誉教授) |
| <u>⑧「佐呂間漁業協同組合と報徳」</u> | 阿部 與志輝 様(佐呂間漁業協同組合 前代表理事組合長) |
| <u>⑨「流通新構築と技術革新による持続可能な農と食の未来」</u> | 加藤 百合子 様(株式会社エムスクエア・ラボ代表取締役) |
| <u>⑩「日本の農業・社会問題を解決する小さな一步の可能性 掛川やさいクラブの実践報告」</u> | 中田 繁之 様(株式会社これっしかどころ代表取締役) |
| <u>⑪「北海道農業・協同組合と報徳思想の関わり」</u> | 富田 義昭 様(一般社団法人北海道地域農業研究所顧問) |



④文化財の保全と活用

大日本報徳社敷地内にある6つの文化財について、保全に努めつつ、報徳の普及という先人たちの思いに応え、報徳研究や、文化活動・学術活動等地域の皆さんのが取り組む様々な活動の拠点として活用頂けるよう、貸与事業を行っています。

①大講堂（国指定重要文化財）



③冀北学舎（県指定文化財）



⑤淡山翁記念報徳図書館（県指定文化財）



②仰徳記念館（県指定文化財）



④仰徳学寮（県指定文化財）



⑥道徳門・経済門（県指定文化財）



④文化財の保全と活用（活用事例）

学術活動

大日本報徳社常会、各種研究フォーラム、調査研究事業等
企業、行政機関等による研修事業、セミナーなど

文化活動

音楽、舞踊、ダンス公演・将棋王将戦（大盤解説）
落語・ハロウィンイベント（掛川百鬼夜行）、お茶会
コスプレイベント、文芸作品等の展示会など

その他

子どもの学習スペース・施設見学・写真撮影会
地域の小学校・幼稚園の見学事業、遠足など



大日本報徳社は、二宮尊徳の「報徳」の知恵を礎に、
地域に根ざした学びと実践を積み重ねることで、人を育て、社会をつな
ぎ、次世代へと持続可能な未来を手渡すESDの実践を続けてきました。

今後も、報徳の知恵と地域の文化の次世代への継承に努め、持続可能な
地域社会の形成に努めていきたいと考えています。

ご清聴ありがとうございました。